

機関番号：14302

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520496

研究課題名（和文） 日本人英語学習者の異文化間コミュニケーション能力の育成
：方略指導と効果の検証研究課題名（英文） Improving intercultural communication skills of Japanese EFL
learners : The effects of strategy inventory training

研究代表者

泉 恵美子 (IZUMI EMIKO)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：10388382

研究成果の概要（和文）：

本研究では、EFL環境にあるアジア人英語学習者のCS使用や、拒否・反対意見などの言語機能の使い方の比較、カリキュラムや教科書でCSがどのように指導されているかを含めて、日本、タイ、中国の小学生から大学生までを対象にCSに関する調査を実施した。また、英語母語話者との異文化間コミュニケーションにおいて、どのように方略が異なるのかを、ビデオ録画による会話を分析することでその特徴を探った。その結果、CS指導や有効性に対する意識において、国による違いが観察された。

研究成果の概要（英文）：

In this study, a large-scale survey on communication strategies (CS) and language functions used such as refusal and disagreement was carried out. The participants were Asian EFL learners from primary to tertiary levels including Japanese, Chinese, Thai, and Vietnamese. In order to investigate and explore how CS are instructed and used in those countries, English textbooks and national curriculums were analyzed. Also, English conversations between native speakers of English and Asian learners of English were videotaped while doing the communicative tasks and transcribed from the perspective of CS use. As a result, several distinct differences in CS use and learners' consciousness of CS were observed according to the countries as well as individual and cultural differences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文・社会系

科研費の分科・細目：外国語教育

キーワード：英語教育、異文化間コミュニケーション、コミュニケーション方略、タスク

1. 研究開始当初の背景

中・高等学校の学習指導要領では、場面や働きに応じて英語を正確かつ適切に用いて自分の気持ちや相手の気持ち、また情

報を理解したり、伝えたりする実践的コミュニケーション能力の必要性が謳われている。また、文部科学省から発表された「『英語が使える日本人』の育成のための

戦略構想－英語力・国語力推進プラン」(2002)と「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」(2003)の中でも英語が使える日本人を育成する重要性があげられている。しかしながら、実際に異文化コミュニケーションの場面においては、日本人は沈黙や挫折を生じ、コミュニケーションがうまく進まないことがよくある。

一方、コミュニケーション能力は Canale (1983) のモデルによれば、4つの構成要素(文法能力、談話能力、社会言語学的能力、方略的能力)を持ち、コミュニケーション方略(CS)を、方略的能力と名づけている。また Bachman (1990) は、「言語能力」と呼ばれる別のモデルを提案し、方略的能力を言語能力のまったく別の要素として定義し、話者の持っている背景知識とともに言語能力を使う際の最終決定に用いられる力だとしている。これらのコミュニケーション能力の2つのモデルは、方略的能力を違ったように捉えているが、どちらもその重要性を述べている。

1970年代に始まったCS研究に関しては、これまで Celce-Murcia, et al (1995)、Yule & Tarone (1997) など多くの研究者によって先行研究がなされ、相互作用的な中で、語彙の不足等を補うものとしての方略と心理言語学的側面を扱った代表的なモデルがあるが、最近では Dornyei and Scott (1997) が、CSを「コミュニケーションの諸問題を補うための学習者の技術」であり、達成方略と回避方略の2つの種類をあげている。しかしながらその教授可能性や第2言語習得との関係等に関して見解が分かれており、今後更なる研究が必要である。また国内では、平野 (1985)、Takatsuka (1999)、岩井 (2000) などによって日本人学習者のコミュニケーション方略と習得に関する研究が行われているが、実際の相互作用の中でオーラルコミュニケーションの挫折の原因に焦点を当て、日本人学習者の特徴と方略指導を詳細に研究したものは見当たらない。特に日本人学習者と英語母語話者やアジア人英語学習者など異文化間コミュニケーションにおけるコミュニケーションの挫折と修復の特徴を比較した研究は少なく、また特に沈黙の焦点をあて、沈黙の原因と対策を考えることは、今後日本人が口頭で異文化コミュニケーションを行う際に最重要課題であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、英語学習者が英語を用いてオーラルコミュニケーションを行う際、どのような問題に遭遇してコミュニケーションが挫折するのか、またどのような方略を用いて問題の修復を図ろうとしているのかを特にモニタリング機能に焦点を当て、ビデオや録音によるプロトコルと会話を分析することで解明し、その特徴を探ることを目的とする。特に外国人との相互交流の場合と日本人同士の場合ではどのように方略が異なるのか、またアジア人英語学習者の会話とどのように異なるのかを、会話交替などにも注目しながら考察する。更に非言語的方略(ジェスチャーや表情など)にも焦点を当て、コミュニケーションの特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

研究の方法は以下の通りである。

(1) CS指導のカリキュラム開発と指導についてこれまでの先行研究や、自身の研究のまとめを行う。

(2) 語彙レベルを測定する Nation の語彙サイズテストやコミュニケーション方略使用を調査するテストを実施しそのレベルをチェックする。語彙レベルとコミュニケーション方略テストの相関を調べる。

(3) 日本人英語学習者のCSの特徴とアジア人英語学習者(中国人、タイ人)のCSの特徴を質問紙法により調査し比較を行う。参加者は小学生、中・高校生、大学生である。内容はコミュニケーションに対する意識、コミュニケーションの挫折の原因、CSの効果と使用状況などを含む。

(4) 日本を含め諸外国の英語教育において、方略の指導が行われているのか、またどのような到達目標が設定されているのかをナショナルカリキュラム、英語教科書を分析して特徴をまとめる。

(5) 日本人並びにアジア人(日本人、中国人、タイ人、ベトナム人)の英語による会話やコミュニケーションタスクの最中の様子をビデオに録画し、会話分析の手法により言語、非言語におけるコミュニケーションの特徴を調査し、コミュニケーションの挫折とその修復方法の特徴について探る。また、英語母語話者や外国人英語学習者との異文化コミュニケーションにおいて、コミュニケーション上の問題になりやすい言語機能である拒否や反対意見表明の場合はどのような方略を用いるのか

も並行して分析する。

(6) 日本人大学生を対象に、拒否・反対意見をどのように伝えるかについて、アンケート調査を実施し、分析する。

4. 研究成果

3年間の研究を通して様々な成果が得られた。その一例を以下に述べる。

(1) 日本、タイ、中国の学習者のコミュニケーションに対する意識と方略使用についての質問紙調査

①研究の目的

日本、タイ、中国の児童・生徒の英語学習に対する必要性並びに、英語によるコミュニケーションやコミュニケーション方略について、どのように感じているかを調査し、その結果を比較・検証する。

②調査対象者

日本・タイの小学校5年生、6年生、日本・タイ・中国の中学校1年生、高等学校1年生、日本・タイの大学生、計863名

③実施場所と実施時期

日本の兵庫(2009年1月)、タイのバンコク(2008年9月)、中国の北京(2010年6月)。

④手順

英語教育、英語力、コミュニケーション、コミュニケーション方略に関する14項目の質問に対して、5段階評定法を用いた質問紙調査を実施した。(5:非常にそう思う、4:そう思う、3:どちらとも言えない、2:そうは思わない、1:全然そうは思わない)その後、記述統計、相関、分散分析等を用いて考察を行った。

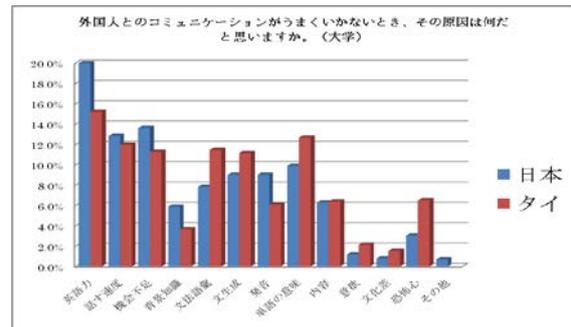
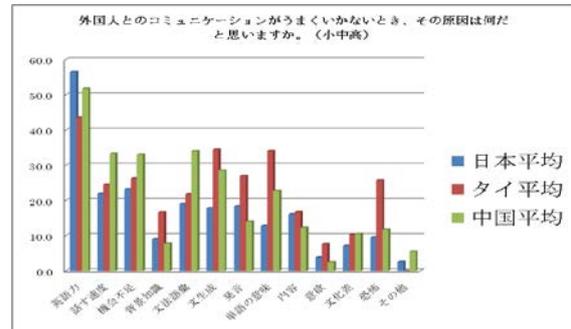
⑤結果と考察

主な結果と考察は以下の通りである。

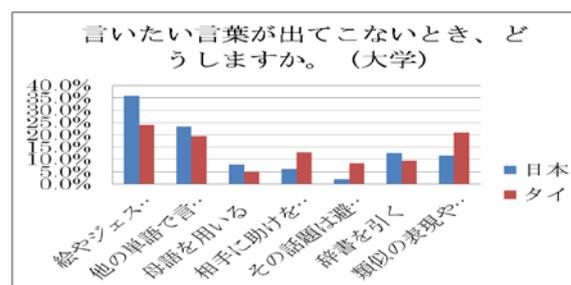
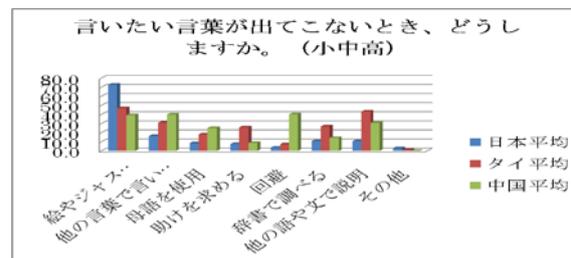
外国人とのコミュニケーションへの意欲は日本・タイの高校生が高くなっており、日本の中学生がやや低い結果が見られるが、概して高く6割近い学習者がコミュニケーションを試みたいと答えている(日本58.2%、タイ59.1%、中国61.0%)。一方、うまくコミュニケーションできると思わない学習者が、日本の小5生を除いては多く(日本44.4%、タイ51.5%、中国52.0%)、自信のなさがうかがえる。

次にCSの使用については、小学校から高校までの全体の平均と大学を分けてグラフに示す。うまくコミュニケーションが出来ない原因については、英語力不足と答えた回答が多く、単語の意味が分からない、文が作れないなどが続いた。タイの生徒は単語の意味が分からない、話すのが怖いなどの項目において回答が目立った。中国の生徒は話す機会

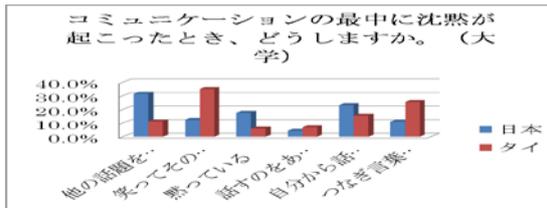
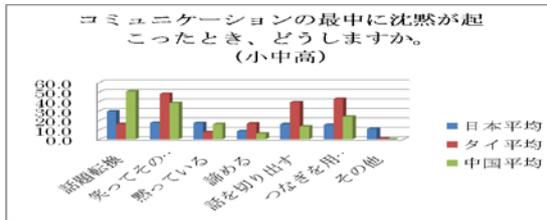
がなかったり、文法が分からないなどの回答が多かった。図はいずれも上が小学生から高校生の回答、下が大学生の回答になっている。



次に、コミュニケーションの挫折の大きな原因になりやすい、語彙が出てこない場合、沈黙が起こった場合についても国による差が見られた。話題を変えたい場合については、国による差は特に見られなかった。語彙が出てこない場合は、日本人学習者は絵やジェスチャーを用いるといった回答が多く、中国は言い換えか回避、タイでは、助けを求めたり類似の表現を用いるといった方略が多かった。これらは後述するテキストなどで普段から指導されていることの表れだと思われる。

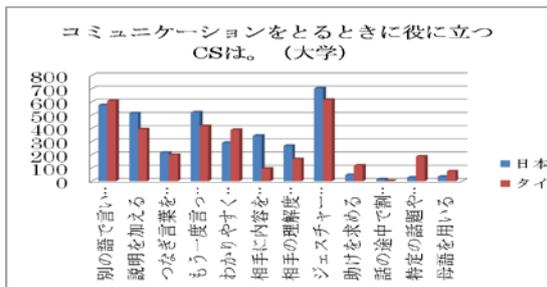
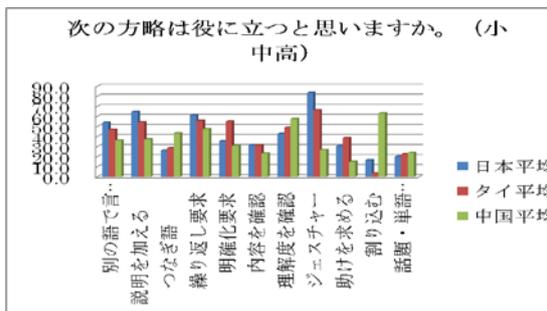


沈黙の対処では、タイや中国は笑ってその場をしのぐが多いが、話を切り出したり、つなぎ語を用いるといったCSも使えることがうかがえる。



話題の転換はほぼ同様の傾向があり、会話に割り込むといったCSは少なく相手が話し終わるのを待つ、黙って我慢するといった回答が多かったが、これは東洋人の文化的要因とも考えられる。

方略の有効性を尋ねる質問に対しては、日本人学習者は、絵やジェスチャーが役立つと回答しているものが7割を超えているが、これは小学校からの指導の結果であると同時に言語によるCS指導がなされていないことも原因と考えられる。つなぎ語、明確化要求や内容確認などインターアクションで大切である基本的なCSや、言い換えや割り込みなど高度なCSの指導も今後の課題であると思われる。指導しないから使えない、使わないから有益性と重要性が認識できないといったことが考えられるためである。



(2)日本、タイ、中国のテキストにおけるCSの指導

諸外国の英語教育のシラバスや、コミュニケーションとCSの調査の結果も踏まえて、小・中学校入門期にCSを明示的に指導しておくことが必要であると考えられる。その指導の手順としては、①会話を聞かせて、コミュニケーションを円滑にしたり、自分の気持ちをより丁寧に伝える表現に気づかせる。②表現を教える。(相づち、聞き返し、繰り返し、明確化等の方略、アイコンタクト・ジェスチャーなど) ③タスクを設定し活動の中で使わせてみて、慣れさせる(例:自己紹介や、インタビュー活動で、必ず相づちを打たせる、必ず聞き返す。道案内、買い物、注文などの場面で必ず確認させるなど)。④振り返らせる:うまくCSが使えたかどうかを自己評価させる。⑤成功体験を積み、英語を話したり聞いたりできる自信をつけさせることが必要である。それでは、実際に指導に用いるテキストに、CS表現が扱われているのだろうか。具体例として、以下のテキストにそれらが見られたので、一部抜粋する。

①日本のテキスト

New Horizon English Course (Tokyo Shoseki)

One World English Course (Kyoiku Shuppan)

Mike: What's this?

Judy: I don't know. Is it an animal?

Mike: Yes, it is. It's a rabbit.

Judy: Really? (NH 1:33)

Mike: Excuse me.

Woman: Yes?

Mike: Is this your change?

Woman: Pardon?

Mike: Your change.

Woman: Oh, my change! Thank you.

Mike: You're welcome. (NH 1:41)

Excuse me, Ms. Sato. Could you say that again? (OW:5)

What's the answer to question number one?

I'm sorry, I don't know. (OW:5)

I have a question.

How do you say *matsu* in English?

How do you spell it?

How do you read this word?

What does it mean? (OW:5)

日本のテキストは、教室英語として表現を最初に指導しているものが多く、文中ではそれぞれのテキストで1課分の中で聞き返しや言い換えの例を挙げているものが多い。

②タイのテキスト

Projects: Play & Learn 5 (Ministry of Education. (2004). Kurusapa Publisher.)

What does 'choose' mean?

We've found it! 'Choose' means....

What did you say?

I said 'zing'.

Did you say 'sing'?

No, I said 'zing'.

Sorry, I thought 'sing'. (PP&L 5:86-87)

Projects: Play & Learn 6 (Ministry of Education. (2005). Kurusapa Publisher.)

Play 'Interactive dictation'

This is the story of the three little pigs...

Stop, please. Let me write. (no sound)

Rewind. Let me hear it again, please. (rewinding sound)

Play, please.

This is the story of the three little pigs...

Stop.

How do you spell 'brother'? 'b-r-a-t-h-e-r' or 'b-r-o-t-h-e-r'?

B-r-o-t-h-e-r with a big B. It's a name.

the three little pig ate and played...

Stop. Is that 'play' or 'played'?

Rewind and play again please. (PP&L 6:22)

Your Turn Best 3 (Downie, Michael & Taylor, Stephanie. (1996). Richmond publishing)

Solving Language Problems 1

1. How do you spell...?

2. How do you pronounce this word?

3. How do you say ... in English?

4. What's the answer to number 1?

5. What does travel mean?

6. Where's the stress on the word *interesting*? (YTB 3:4)

タイのテキストでは、絵を用いたり、遊びの中や、教師と生徒の教室でのインタラクションの場面を再現し、CSの指導を行っている例が多く見られ、徹底した指導が行いやすいと言える。

③中国のテキスト

Integrated Primary English 小学総合英語 (Method, Ken & Pelham, Linda. (2003). 上海外語教育出版社、Longman)

What is this?

It's an apple.

How do you spell apple, Tony?

I am sorry, Miss Xu. I don't know.

I know. A-p-p-l-e. (IPE 1:19-20)

九年必務教育課本 *新世紀小学英语 New Century Primary English* 四年級第一学 (上海中小學課程教材改革委員會. (2003). 上海外語教育出版社)

Today is Saturday. Carol is at home. She is not

going to school, but she is getting ready for a party. She is wearing a white blouse and a long skirt.

Carol: Look at me, Mom.

Mother: Oh, what a pretty girl! But whose shoes are these?

Carol: Umm, they're yours. (NCPE 4:48)

新世紀初中英語 New Century Junior English 六年級第二学期 (上海中小學課程教材改革委員會. (2002). 上海外語教育出版社)

1 Hold on. I'll get her.

2 I'd like to speak to Tom, please.

3 I'm afraid she's out.

4 May I take a message?

5 Could you say that again?

6 What activities shall we take part in?

7 I want to talk to her about the Science Activity Week. (NCJE 6:46)

中国のテキストでは、定型表現としてCSを扱いつつ、比較的長い談話の中で、会話方略など高度なCSを指導する例も見られる。

(3) 大学生のオーラル英語の授業で、語彙能力と方略能力の関係を探るべく、語彙サイズテストとCS調査を行い、データをSPSSを用いて分析した。その結果、語彙能力と方略使用について有意差があることが分かった。更に大学生を対象にコミュニケーションタスクによるCS指導を行った。その際、モニタリングとリフレクションを導入することにより、メタ認知が高まり、成果が現れた。

(4) 日本人並びに中国人、タイ人、ベトナム人と英語母語話者との英語による会話やコミュニケーションタスクの様子をビデオに録画し、コミュニケーションの特徴を分析し、コミュニケーションの挫折とその修復方法について会話分析の手法を用いて探った。また、拒否や反対意見表明の際、どのような方略を用いるのかを大学生を対象にアンケート調査を実施し、分析を試みた。その結果、言語能力や学習者要因、コミュニケーションスタイルも関係するが文化による差も観察された。更に、手や身振りなどのジェスチャーや、相槌、溜息など非言語的特徴が、言語の不十分さを補完していることも観察された。またその後のインタビューにより、挫折と修復、成功に導くメカニズムを探ることを試みた。同じEFL環境にあるアジア人英語学習者とのCS使用や、拒否・反対意見などの言語機能の使い方の比較、日本、タイ、中国の小学生から大学生にいたる大規模なCSに関する調査などを実施することができたのは意義があ

ったといえる。

本研究では、CSについて、様々な視点で分析や調査を実施した。学習指導要領や諸外国のナショナルシラバスからその扱いを調べ、3カ国の学習者に質問紙調査を行い、指導についてはテキスト分析を試みた。また、質問紙や会話分析等で日本人学習者の特徴も分かった。それらを通して、21世紀に世界の人々と共存・共生をしていく若者が英語によるコミュニケーション力を求められている今、アジア3カ国の現状を垣間見ることができた。今後の課題としては、それぞれの国の英語教育の実態の詳細を調べ、日本における英語教育の方向性を検証すること、異文化間コミュニケーションの指導を行う必要がある。またCS指導は重要であるので、授業中英語で様々なコミュニケーションタスクに取り組みせたり、授業以外でも、機会があれば積極的に英語を使って他の人と交流し、生きたコミュニケーションの場での成功体験を重ね自身をつけさせること、ジェスチャー、表情などの非言語手段を使ってコミュニケーション効果を高めさせることを通して、コミュニケーションの中で、言語に困ってもCSを駆使し、コミュニケーションを維持しようとする態度を育てることが必要であると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

- ① 泉恵美子「小学校英語で育成すべきコミュニケーション方略」『小学校英語教育学会紀要』11、2011、31-36. 査読有
- ② 泉恵美子「大学生のオーラル英語におけるコミュニケーション方略指導」*THE JASEC BULLETIN*, 19, 2010、33-46. 査読有
- ③ OKIHARA Katsuaki, IZUMI Emiko, TACHIBANA Chihiro Comparative Analyses on Perceived Needs for Primary-Level English in Japan and Thailand -Questionnaire Results- *Journal of the School of Languages and Communication*, 6, 2010, 9-20. 査読有
- ④ IZUMI Emiko. Enhancing Learner Autonomy through Communication Strategy Training: A focus on Monitoring and Reflection. *The JASEC BULLETIN*, 18-1, 2009, 55-65. 査読有
- ⑤ OKIHARA Katsuaki, IZUMI Emiko, TACHIBANA Chihiro, Perceived Needs for Primary-Level English in Japan and Thailand-Interim Report II-. *Journal of*

the School of Languages and Communication, No.5、2009、71-98.査読有

〔学会発表〕(計10件)

- ① Emiko IZUMI Communication Strategies Used by Asian EFL Learners: With a Particular Focus on Refusal and Disagreement. アメリカ応用言語学会年次大会、2011年3月28日、シカゴシェラトンホテル
- ② 泉恵美子「日本、中国、タイの英語学習におけるコミュニケーションへの意識と方略使用」第19回日本英語コミュニケーション学会年次大会、2010年10月9日、早稲田大学
- ③ 泉恵美子「小学校英語で育成すべきコミュニケーション方略」小学校英語教育学会、2010年7月18日、北海道工業大学
- ④ 泉恵美子「大学生のオーラル英語におけるコミュニケーション方略指導」第18回日本英語コミュニケーション学会年次大会、2009年10月10日、関西大学
- ⑤ Emiko IZUMI. Effects of Teaching Communication Strategies - Focusing on Learner's Monitoring and Reflection - 全国英語教育学会、2008年8月9日、昭和女子大学
- ⑥ Emiko IZUMI. Enhancing Learner Autonomy Through Communication Strategy Training: A Focus on Monitoring and Reflection. World CALL、2008年8月6日、福岡国際会議場
- ⑦ Emiko IZUMI. Strategy-based Instruction to Develop Communication Skills of Japanese EFL Learners. IETEFLL Conference. 2008年4月8日、エクセター大学

〔図書〕(計1件)

- ① 門田修平、野呂忠司、氏木道人、池田真生子、泉恵美子他 大修館書店、『英語リーディング指導ハンドブック』、2010、415.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

泉恵美子 (京都教育大学)
研究者番号: 10388382